

浜田市の中山間地域を中心に米軍機とみられる低空飛行が依然続き、地域住民は、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。自宅で病氣療養中や育児中の方、乳児、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与えております。

これまで、本市は市民の不安の解消と騒音防止の観点から、島根県を通じて、外務省及び防衛省に対して低空飛行訓練中止を繰り返し要請してまいりました。

また、昨年 11 月には、当市佐野町の学校施設上空を貴基地所属の飛行機が低空飛行し、児童への恐怖心を招いたことや夜間の落雷に匹敵する衝撃波的な音による苦痛に対し、2 度にわたって低空飛行訓練の中止を要請したところです。

しかし、この 3 月 14 日にも、特に午後 9 時 20 分頃から午後 10 時までの夜間に、浜田市旭町を中心とする地域において、断続的な低空飛行に係る飛行音により、テレビの音をはっきり聞こえない等の苦情が寄せられたところです。

このことに関し、県が中国四国防衛局を通じて、米海兵隊岩国航空基地に確認したところ、「苦情の時間及び場所にて、米軍機が訓練空域を使用していた。同米軍機は、訓練時において、合同委員会合意の所定の規則全般に従って訓練を実施していた。」と回答がありました。

また、これまでの幾度とない要請にもかかわらず、一向に改善されない状況を鑑み、昨年末、当市旭支所屋上に騒音測定器を設置し、24 時間測定を続けています。その結果、上記 3 月 14 日の午後 7 時 20 分から午後 10 時の間には、計 23 回観測し、最大値 91.5 d B を記録しており、地元住民に与える影響を最小限にするとは言い難い状況にあります。

貴職におかれましては、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという市民の心情を認識の上、低空飛行訓練の実態を明らかにし、低空飛行訓練を中止するよう強く要請いたします。

2012 年 5 月 1 日

アメリカ合衆国

海兵隊 岩国航空基地司令官

ジェームス・C・スチュワート大佐 様

日本国 島根県浜田市長 宇津 徹 男